
個別避難計画を活用した 避難訓練 報告書

(令和 6 年度)

訓練概要	p 3 – 6
------	---------

各区の訓練風景	p 7 – 16
---------	----------

総評	p 17 – 19
----	-----------

今後の課題	p 20 – 21
-------	-----------

アンケート集計	p 22 – 26
---------	-----------

訓練概要

1 日程等

区名	訓練日時	避難先
中央区	R6.11.13	宮崎公民館（宮崎2-5-22）
花見川区	R6.11.13	非公表
稲毛区	R6.11.25	非公表
若葉区	R6.12.13	千葉市桜木園（桜木8-31-15）
緑区	R6.11.13	非公表
美浜区	R6.11.27	幕張西公民館（幕張西2-6-2）

2 訓練参加者 ※区ごとに参加者が異なります。

- 対象者及び親族

- 千葉市

- 防災対策課
- 障害者自立支援課
- 健康支援課
- 区健康課
- 障害福祉サービス課
- 高齢福祉課
- 区高齢障害支援課
- 区地域づくり支援課
- 公民館職員

- 障害者基幹相談支援センター

- 福祉専門職

- 相談支援専門員
- ケアマネジャー
- 訪問看護ステーション

- 地域住民

- 町内自治会
- 自主防災組織

- 千葉県立袖ヶ浦特別支援学校

3 訓練内容

① 集合場所から避難先までの避難

- ✓ 避難経路に通行困難な箇所がないか（段差やブロック塀、交通量など）
- ✓ 備蓄品を携帯したうえで無理のない避難ができるのか

② 避難先での居住スペースの確認

- ✓ 避難支援者と共に居住できる場所の確保ができるのか
- ✓ 移動手段（車いす、バギーなど）を置くスペースはあるか

③ 避難先の電源の確認

- ✓ 電源の種類（発電機、蓄電池など）の確認
- ✓ 電源を供給する場所の確認

④ 避難時に携帯する備蓄品の確認

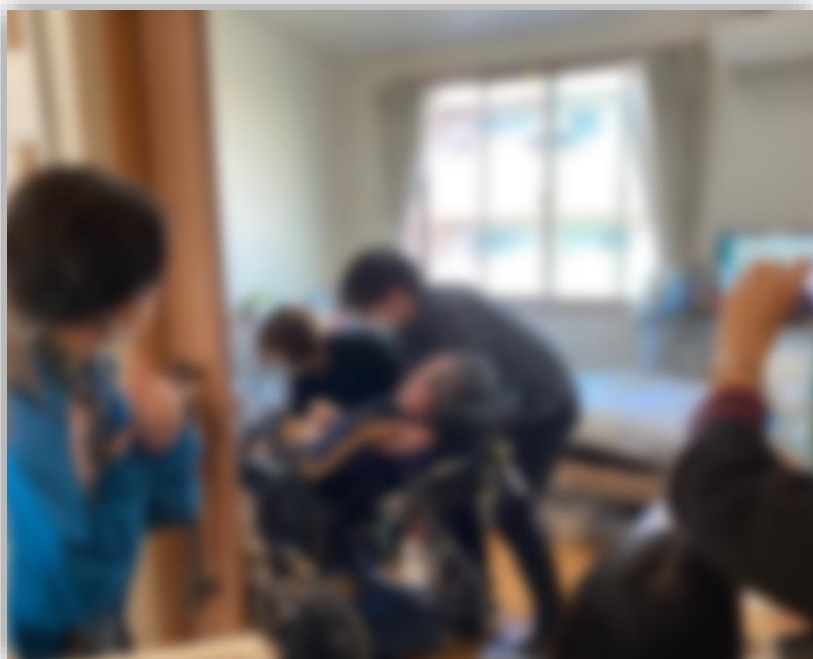
- ✓ 酸素ボンベや毛布、流動食など災害時に備えて用意しているものの確認

⑤ 訓練の振り返り

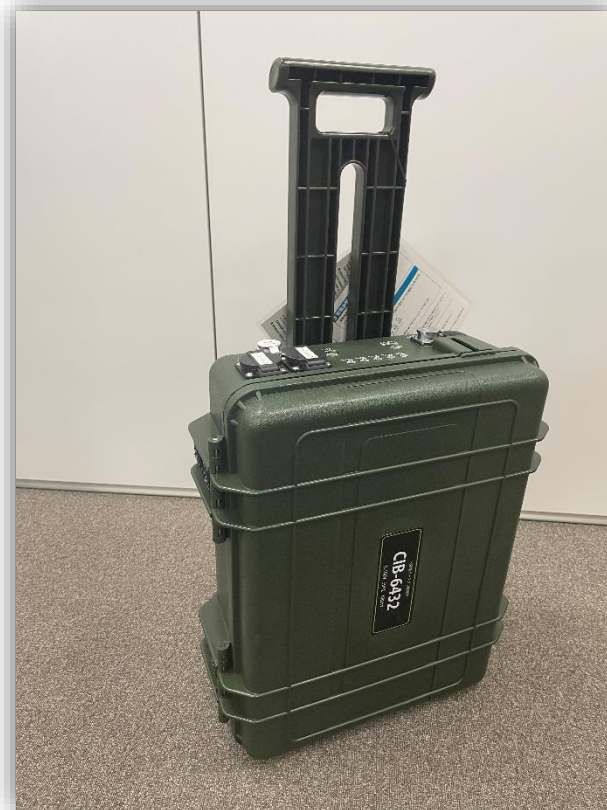
- ✓ 気づいた点や課題について訓練参加者全員で共有

各区の訓練風景

中央区



【ベッドから車いすへの移乗】



【千葉市が導入している蓄電池】
※6,216Wh（スマホ約518台分）

花見川区

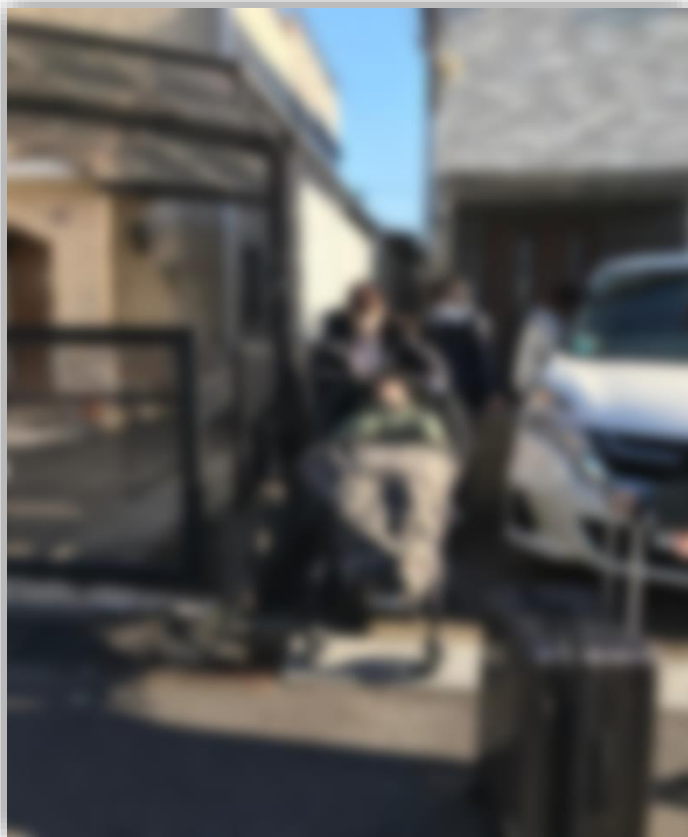


【通所施設から避難先へ】



【避難先のお寺】

稲毛区



【自宅を出発】



【備蓄品を持ち、避難先へ移動】



【顔の見える関係性をつくり、支援の輪を広げる】

若葉区

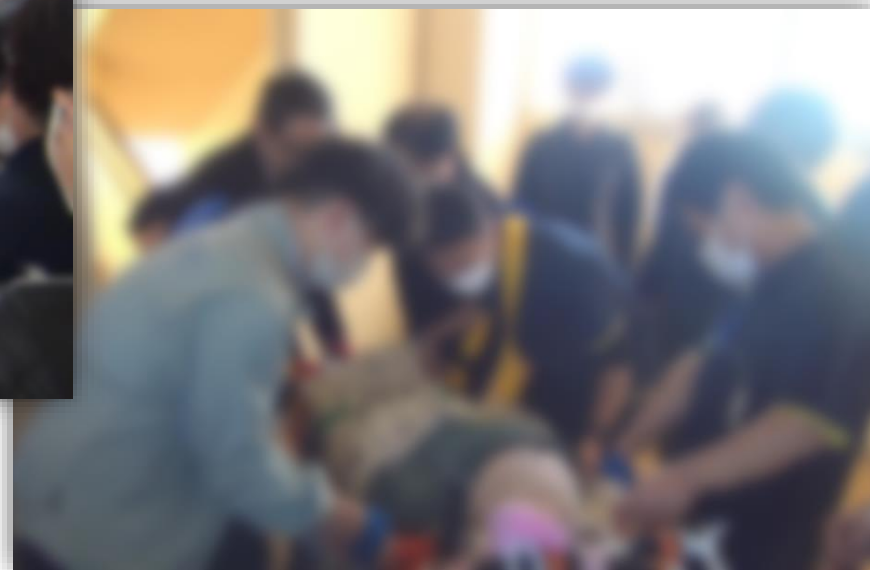


【参加者全員で避難に関する課題などを確認】

緑区

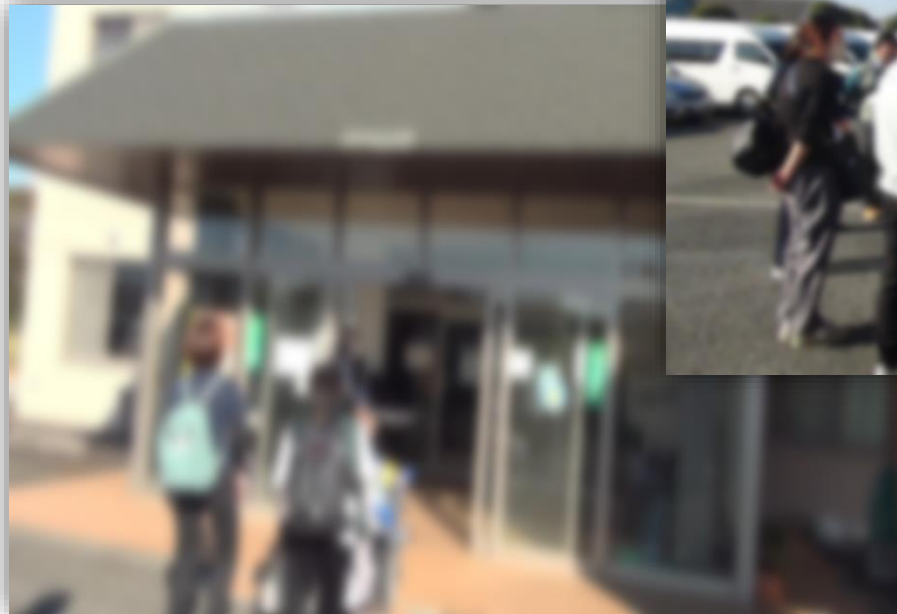


【ベッドからベルガに移乗する際の注意点の確認】



【ベルガでマンション上層から階段で避難】

【訓練の振り返り】



【避難先に到着】

美浜区

【車いすから段ボールベッドへの移乗】



【電源供給場所の確認】



【自宅から避難先に向けて避難しているようす】

総評

訓練実施によるメリット

(1) 個別避難計画の実効性の確認

- 個別避難計画に記載されている内容と実際の訓練を比較することで、実効性を確認することができる。

(2) 顔の見える関係の構築

- 訓練をすることで、対象者（家族）、避難支援者、避難先が顔の見える関係性となるため、信頼関係構築の一助となる。

(3) 地域住民（団体）とのつながり

- 地域住民（団体）が訓練に参加することで、地域での要支援者の支援体制構築につながる。

(4) 対象者（家族）が抱えている不安の軽減

- 支援者だけでなく、市職員が参加することで対象者（家族）が抱えている不安（生の声）を聞くことができるため、既存サービスの提案や新たな行政サービスのきっかけとなる可能性がある。

成果と今後の方針（予定）

- 個別避難計画を活用した訓練を実施したことで、アンケート結果にあらわれているとおり、参加者の要支援者に対する意識に変化があった。
- 訓練による個別避難計画の実効性を検証することも重要だが、対象者（家族）が抱えている不安・悩みを聞く場としても有意義である。
- 顔の見える関係性の構築の推進や課題発見の機会につながる。発災時に備えて継続した訓練の実施が効果的である。
- 全対象者の訓練を実施することは現実的ではないため、対象者（家族）による訓練の実施や計画の定期的な見直しについて周知をする必要がある。

今後の課題

主な意見

訓練実施の

課題

事前に避難者側・受け入れ側双方において確認したい事項をチェックリストやアンケート方式で収集しておくことで、訓練効率が良くなるのでは。

地域団体（町内自治会や自主防災組織など）に訓練の機会があることを周知することで、対象者とその家族がより安心して過ごせる要因になると思うため、別の地域でも訓練をすると良いと思う。

避難をする際に必要となる支援者の確保

蓄電池があっても使用方法が分からなかった。あったとしても充電がされていないかった。

発災時の

課題

医療機器を利用している方の場合、専門的な知識がないと避難支援は困難である。

発災時の状況によっては、避難ルートの見直しをする必要がある。

避難時に必要となる荷物が想像以上に多いため、対象者の避難と合わせて荷物を運搬することは困難である。

アンケート集計

主な意見

実際に訓練をやらないとわからない課題が見つかった。

訓練をすることによって、要支援者の避難の実態のイメージがしやすくなった。

要支援者と避難支援等関係者だけでなく、実際の避難先の方と顔の見える関係を構築することが大切だと感じた。

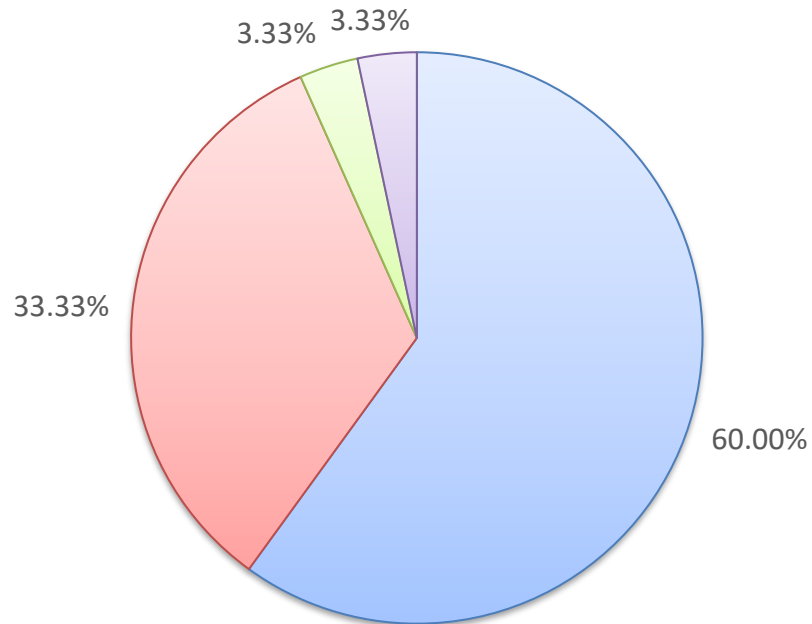
年に1度は訓練を実施することで実効性の確認をすることで安心を得ることができる。

訓練を経験したことで、災害時のイメージがついたので、一人でも多くの方に参加してもらい、実態を共有したい。

個別避難計画を作成している意味がわかった。

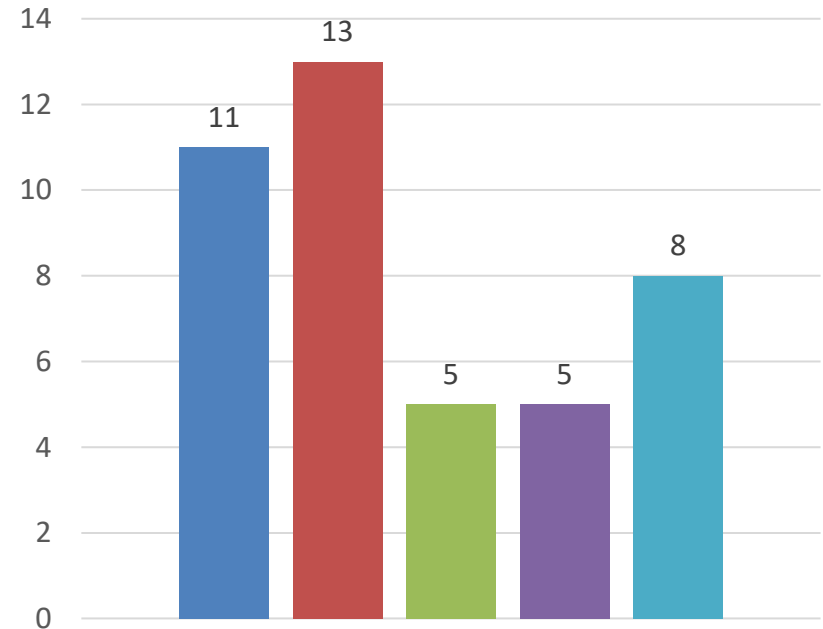
多くの方が訓練に参加することで協力できる人を増やすことにつながる。

回答者属性（30人） R6.12.19時点



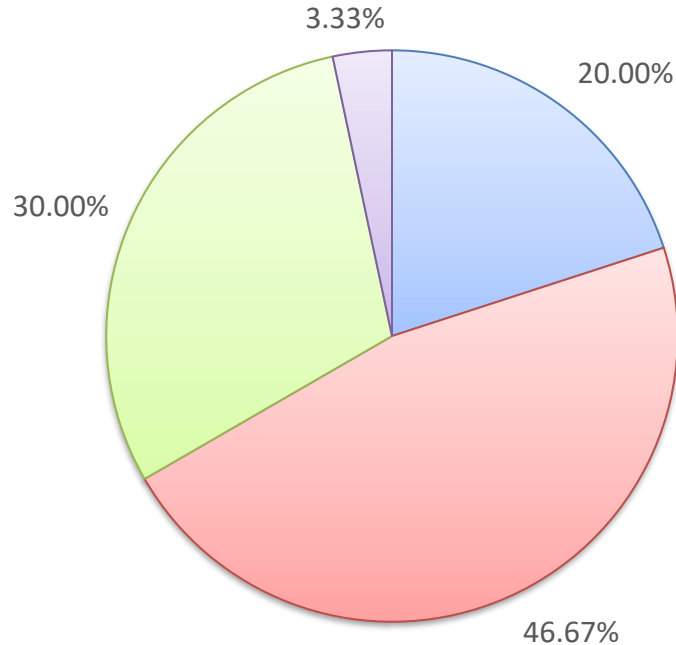
- 市職員
- 法人または事業所
- 個人（対象者、親族）
- 個人（対象者、親族以外）

過去に参加したことのある訓練（複数選択可）



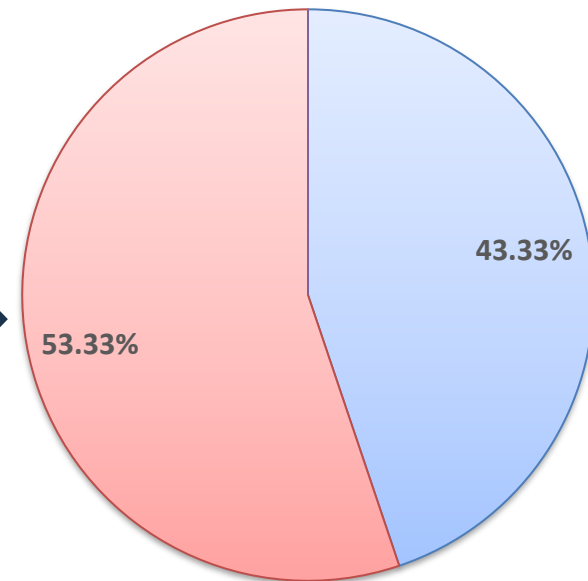
- 地域団体が実施する防災訓練（机上訓練含む）
- 避難所開設訓練
- 要支援者を対象とした訓練
- 個別避難計画を用いた訓練
- その他

訓練「前」の理解度



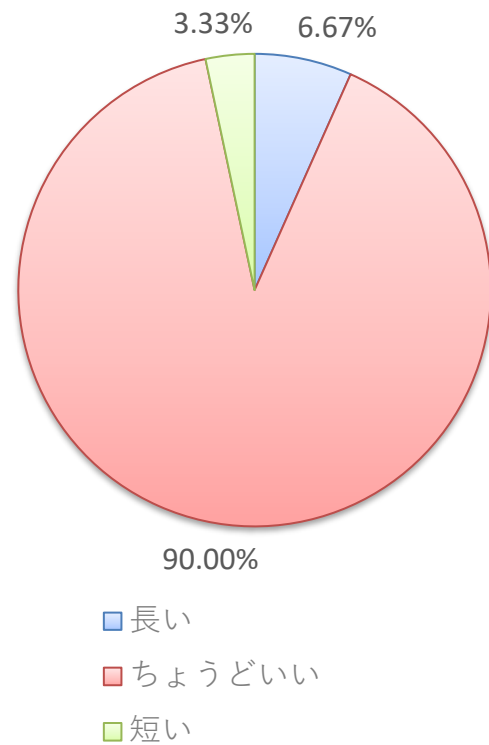
- 十分理解していた
- 概ね理解していた
- あまり理解していなかった
- 理解していなかった

訓練「後」の理解度

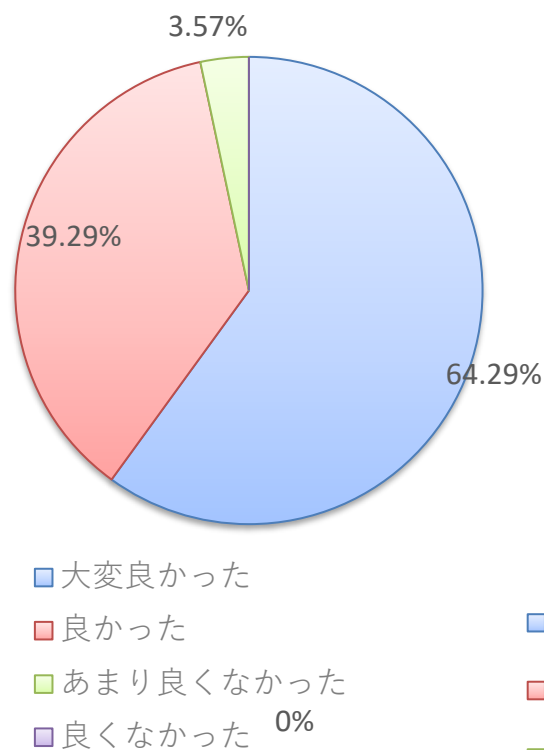


- 十分理解できた
- 概ね理解できた
- あまり理解できなかった 0%
- 理解できなかった 0%

本訓練の所要時間



本訓練の充実度



今後の訓練参加

